

ヒメトビウンカを防除し、イネ縞葉枯病の被害を防ぎましょう！

イネ縞葉枯病は、イネ縞葉枯ウイルスによって引き起こされる病害で、ヒメトビウンカにより媒介されます (写真1~3)。

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率と麦類での生息密度の調査結果は次の通りでした (令和6年5月下旬調査)。

- 保毒虫率の県平均値は2.3%であり、平年値 (5.8%) よりやや低く、令和元年度以降は減少傾向で推移しています (表1、図1)。
- 麦類での生息密度の平均値は63.3頭/10㎡であり、平年値 (148.7頭/10㎡) よりやや少ない状況です (図1)。

被害の発生を防ぐため、「防除対策」を参考にヒメトビウンカの適切な防除を行いましょう。

【防除の注意点】

平年に比べて保毒虫率はやや低く、生息密度はやや少ない状況ですが、イネ縞葉枯病に対する抵抗性を持たない品種を作付する場合には、本病による被害の発生に注意が必要です。



写真1 ヒメトビウンカ 雌成虫



写真2 イネ縞葉枯病 (穂の出すくみ症状)



写真3 イネ縞葉枯病 (ゆうれい症状)

表1 第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (%)

地点名		年度		
		R4 2022	R5 2023	R6 2024
県北部	大田原市親園	3.1	0.0	0.0
	大田原市蛭畑	1.0	1.0	3.2
	さくら市松山新田	1.0	1.0	2.1
	高根沢町花岡	2.1	0.0	1.0
県中部	真岡市青田	3.1	5.2	-
	真岡市横田	-	-	4.2
	宇都宮市横山町	5.2	3.1	2.1
	宇都宮市雀宮	3.1	5.2	-
	上三川町上三川	11.5	7.3	7.3
県南部	鹿沼市酒野谷	3.1	2.1	3.8
	下野市小金井	1.0	9.4	1.4
	小山市小葉	3.1	2.1	1.1
	小山市石ノ上	1.0	1.0	5.2
	壬生町助谷	2.1	5.2	1.0
	栃木市惣社	2.1	3.1	1.0
	栃木市大平町真弓	5.2	0.0	3.1
	栃木市藤岡町富吉	2.1	3.1	0.0
	佐野市堀米	4.2	2.1	1.3
	足利市上洪垂	0.0	2.1	1.0
県北部平均		1.8	0.5	1.6
県中部平均		5.2	4.6	4.4
県南部平均		2.3	3.1	1.7
県平均		3.0	3.0	2.3

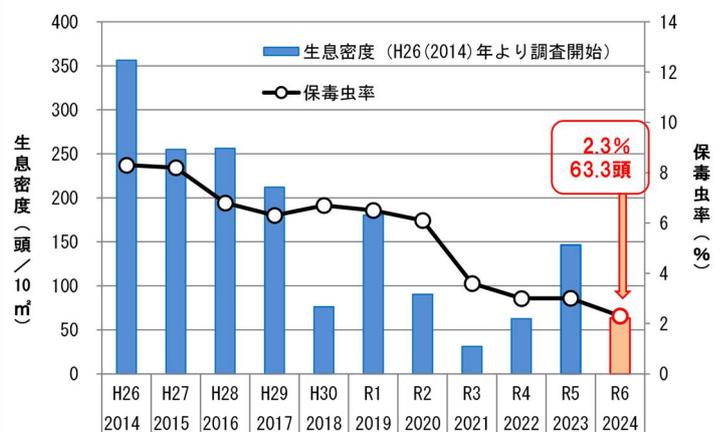


図1 イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び第1世代幼虫の麦類での生息密度

防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用しましょう（表2）。

表2 稲（育苗箱）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年6月11日現在）

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	農薬の系統	RACコード
●殺虫剤						
リディアNT箱粒剤 （ウンカ類、ニカメイチュウ、フタホシコヤカ）	育苗箱 （30×60×3cm、使用土壌約5L） 1箱当り 50g	は種時（覆土前） ～移植当日 ※フタホシコヤカは移植3日前～移植当日	1回	フルピリミン	ピリジリデン	I:4F
フェルテラゼクサロン箱粒剤 （ウンカ類、ネツトムシ、コブノメカ、フタホシコヤカ） （※ニカメイチュウ）		は種時（覆土前） ～移植当日 ※ニカメイチュウは移植3日前～移植当日	1回	トリフルメゾピリム クロラントラニリブロール	メソイオン ジアミド	I:4E I:28
ゼクサロンパディート箱粒剤 （ウンカ類、ネツトムシ、コブノメカ、ニカメイチュウ、フタホシコヤカ）		は種時（覆土前） ～移植当日	1回	トリフルメゾピリム シアントラニリブロール	メソイオン ジアミド	I:4E I:28
●殺虫殺菌剤						
稲名人箱粒剤 （ウンカ類、ネツトムシ、コブノメカ、ニカメイチュウ、フタホシコヤカ）	育苗箱 （30×60×3cm、使用土壌約5L） 1箱当り 50g	は種時（覆土前） ～移植当日	1回	オキサゾスルフィル イソチアニル	スルフィル その他（殺菌）	I:未 F:P03
防人箱粒剤 （ウンカ類、ネツトムシ、コブノメカ、ニカメイチュウ、フタホシコヤカ）			1回	トリフルメゾピリム クロラントラニリブロール イソチアニル	メソイオン ジアミド その他（殺菌）	I:4E I:28 F:P03

注1：対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋

注2：薬剤感受性の低下を防ぐため、RACコードが同一のものの連用を避ける。

(2) 本田での対策：早植・普通植栽培

本田防除は、各地域での発生状況や品種を考慮した上で、表3の薬剤を参考に実施しましょう。効果的な防除タイミング（防除適期）は第一世代成虫の産卵最盛期から7日後までの間であり、地域ごとの予想防除適期は表4のとおりです。

なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合、RACコードの異なる薬剤を使用しましょう。

表3 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年6月11日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	農薬の系統	RACコード
●粒剤						
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I:4A
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
●液剤・フロアブル剤						
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I:4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	I:4C
●油剤						
なげこみトレボン	水溶性容器10個 （500ml）/10a	5葉期以降 収穫21日前まで	3回以内	エトフェンブロックス	ピレスロイド	I:3A

注1：薬剤感受性の低下を防ぐため、RACコードが同一のものの連用を避ける。

表4 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予想防除適期と産卵最盛期

	大田原市	宇都宮市	小山市
予想防除適期	6月17～24日	6月8～15日	6月6～13日
（予想産卵最盛期）	（6月17日）	（6月8日）	（6月6日）

※6/10まではアメダス現況値、以降は平年値に+1.1℃で補正（気象1か月予報データを活用）

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel 028-665-1244）までお問合せ下さい。
病虫害情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターのホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。